

2024年 秋
全2回 初級
コース

作業を基盤に我々の健康と幸福を考える

「作業的写真」プロジェクト

オンライン研修会

写真と会話で作業的存在を学ぶ

あなた自身を**作業的存在**として理解する
実践中心の全2回シリーズ!

(事前動画視聴あり)

参加費
3000円

先着
6名

2回目以降の方は2000円

講義だけでなく、**実践**（写真を使って自分の作業について話す・聞く）
が中心のワークショップです **作業の視点を身につける**ことが目標です

小田原 悦子 氏

講
師

作業科学発祥の地、南カリフォルニア大学作業科学作業療法
学部にて修士・博士号を取得。2008年から聖隷クリストファー
大学作業療法学科にて教授として勤務後、2018年退職。
日本作業科学研究会元理事、現在は国際交流班・研究推進
班担当、元ISOS(国際作業科学研究会)理事。



日
程

事前動画視聴（1日目までに視聴）

1日目:10/6(日)

2日目:10/26(土)

午前10～12時
(受付:9:45-)

この書籍を使って
研修会は進みます

作業を基盤に、
我々の健康と幸福を考える

「作業的写真」
プロジェクトとは

小田原悦子
ODAWARA ETSUKO

写真と
会話で
学ぶ



作業科学・
作業療法への
新しい一歩

作業科学の発展を促す
新しい一歩としての取り組み
写真と会話で学ぶ
作業科学の発展を促す
新しい一歩としての取り組み
写真と会話で学ぶ

近藤知子

中村孝雄

申し込み
お問合せ先

右記のQRコードからお申し込み下さい。読み取れない
方は、以下までお問い合わせください。

お問合せ先：nra20749@gmail.com（中塚まで）



後援：日本作業科学研究会

www.jssso.jp

「作業的写真」プロジェクト オンライン研修会では
講義だけでなく、参加者が持ちよった作業の写真に
ついて語りながら、作業的存在の理解を深めます。

以下はこれまでの
研修会やワーク
ショップで寄せられ
た感想の一部です

「作業は環境からの挑戦に働きかけるパンチ」という表現がとても
しっくりきて、作業と環境の関係性が分かりました。作業について、
これまでは作業の要素を知っているだけでした。今は、作業と人、
健康、Well-Beingの関係を考えられるようになりました。



ワークショップは最初緊張しましたが、参加して純粋に楽しく、面白
かったです。作業の形態・機能・意味を考えるという新しい作業の
見方を知れました。人をいろんな層から考えることが出来るよう
になり、作業療法をより好きになれました。



作業科学を学ぶことを通して、作業と人の関係性がはっきりしてきま
した。日常の作業の大切さがわかってきました。作業療法士としては、
なんで自分が作業に関わっているのかがわかってきました。



作業療法士の同僚の悩みにも、自分の言葉でコメントを返
してあげられるようになったのには、自分でも驚いています。



ワークショップで作業の見方を聞き、語り、実践の中で理解が深ま
りました。ただ講義を聞くだけでは得られない、自分の実感を伴う
学びが得られました。作業に興味があって参加しましたが、作業は
想像以上に奥が深いし、作業している人を理解することの面白さと
むずかしさを実感しました。



書籍『作業的写真プロジェクト』序文より

小田原博士は、この本を説明の出発点として使うことによって、作業科学と
作業療法がどのように作業を通して健康の増進、維持、回復に貢献するかを
理解するプロセスに重要でユニークな貢献を果たしています。

南カリフォルニア大学名誉教授 Dr.Ruth Zemke

- ・作業的存在について学びを深めたい方
- ・作業療法の実践に作業的存在の視点を取り入れたい方は、
ぜひご参加下さい！